【17】

氏名	藤井高美（ふじいたかみ）
学位の種類	法学博士
学位記番号	論法博第13号
学位授与の日付	昭和41年3月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**中国革命史研究**
論文調査委員	（主査）教授 猪木正道　教授 立川文彦　教授 勝田吉太郎

論文内容の要旨

この論文は，13章からなる361頁の論文であって，第一次国共合作の成立から，抗日民族統一戦線の結成にいたる期間の中国共産党史を対象としている。

第1章　序言は，問題の提起であって，中国共産党が革命の指導権を奪取するため，国民党に接近し，これと合作，対立，抗争，分裂しながら成長してゆく過程を追及し，その間に党路線がいかに変化したか，毛沢東の革命理論がどのようにして形成されたかを明らかにするとともに，中国共産党とソ連共産党およびコミンテルンとの関係を分析して，中国共産党が開拓した独自の戦略・戦術とエネルギーの源泉を探求するという本論文の意図が示されている。

第2章　第一次国共合作の成立，第3章　5・30事件と省港罷工，第4章　北伐，第5章　武漢政府時代における国共関係，第6章　北伐の進展に対処せるモスコーの指導とその反応，第7章　第二次国内革命戦争，第8章　農村革命根拠地の樹立に関する一考察，第9章　李立三路線に関する一考察，第10章　国際派と毛沢東，第11章　抗日民族統一戦線の先声，第12章　抗日民族統一戦線に関する一考察は，第1章に提起された問題を，史料によって丹念にあとづけたものである。第13章　結言は，本論文の研究にもとづき，中ソ対立の必然性に言及している。

論文審査の結果の要旨

中国共産党史の研究は少くないが，本論文のように，第一次国共合作の成立から，抗日民族統一戦線の結成までを，豊富な史料にもとづき，体系的に叙述したものは，まだ現れていない。本論文の特徴は，明確な問題意識の下に，中国共産党がコミンテルンの指導を脱して，独自の革命理論および戦略・戦術を創出してゆく過程を明らかにしたところに存している。本論文の学問的価値は高く評価されるべきものであり，法学博士の学位論文として価値あるものと認める。